



2021年(R3年)

9月

No. 354

ひとはつうしん

(題名: 中巻第一)



社会福祉法人 ひとは福社会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムア・ジアド リ) http://hitoha-fukushi.com (マルアド リ) honbu@hitoha-fukushi.com

「ひとはつうしん」さん、いかがお過ごしでしょうか。暑さも和らいだとはいえ、私にはまだ日中の暑さはこたえます。

8月、この国では、オリンピックとコロナ禍という歴史に残る課題が突き付けられたように感じます。それも表看板と意図する心根が相反している様相が見て取れ、人の尊厳をゆたかにする文化を高めるうえで、大きな損失になったのではないかと危惧しています。

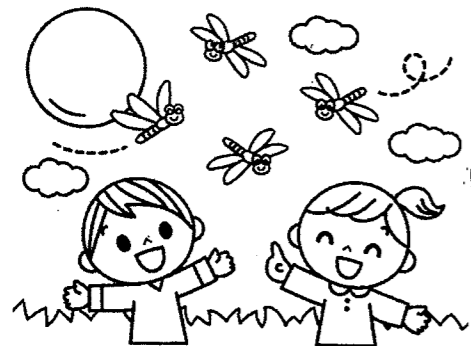
それにも関わらず、きららの人たちのおおらかさといえますか、人間味あふれる心情には本当に感さめられ、励まされもしています。

特に世相には全く無頓着に思える人たちが、そっと寄り添い私の頭をなでてくれたり、よだれを流しながらも、にこやかにハグをしてくれる様子は皆さんにも見ていただきたい風景です。取り立てて私の病状を伝えているわけではありませんが、雰囲気を感じてくれているのかもしれない。

ひとはが創りつづける文化は、人と人の尊厳を基底に置いたゆたかな文化であると改めて確信しています。

コロナ禍という制約がありますが、機会があればお寄りください。

(理事長 寺尾 文尚)



児童部門 くらむぼんの夏休み

8/12 編集委員 竹内が訪問しました。

支援のポイント

一人ひとりに包丁を配る前に手を膝におくよう伝える。子ども達が自分で経験できるように、かつ安全に行うためのスタッフの人数を整える。

一日の流れ

- 9:50 (自由遊びの)おかたづけ
- トイレ
- 始まりの会
- 昼食作り
- 12:00 お昼ごはん
- 歯みがき
- 14:00 室内遊び
- (この日はしほとり)
- 15:00 おやつ
- 終わりの会

竹内の気づき

「タイムをおくことで、"あとどのくらい"と気にする子がいて効果的

お当番さんの声がかさくても、相手に届いていればスタッフが繰り返して言うことはしない所が、その子を尊重されていて良い。

インタビュー

小学3年生 ささき あいらさん
くらむぼんで楽しみにしているのはおやつ作り。ひあくらぶで作ったことのあるアイスを作りたかった。

スタッフ 平賀 憲江さん

はしほとんぞうくんは説明書を見ながら何日もかけて作ったブロックを、すぐ人にあげていたんです。「えー!?! いい!?!」と思えますが、頑張ったものを写真に収めてもらうことが嬉しいみたいなんです。

自分のしほをとられて、人を叩いて逃げる子がいた。悔しかった気持ちを持っているため、してはいけないよとすぐに答えることはしたくない。叩かれた相手は痛かったよと、思いを馳せられるような声かけを行う。

事務所からくらむぼんに電話をすると、子どもたちの声が電話越しに聞こえてくることもある。くらむぼんに行くと、自由遊び中はブロックやボードゲームで遊ぶなどそれぞれ興味のあることをし、コロナ禍でも退屈さを感じてきた私にはついでに子どもたちと遊びたいという気持ちもわいてくる。取柄に行っているのを忘れている時もある。遊びや活動を通じて一人一人の持ちかさを引き出す、それがこの事業所においても支援の本質は変わらない。(竹内 宏美)

「待ってくれていたきらら」

私は4月からあっぷの配属となりました。あっぷで私のことを待ってくれていたきららがいいます。それは中森優一さんです。中森さんとはお互いが中学生の頃に
出会っていました。昼休憩になると「松浦さんおるよ。待って、たんでしょ！」とスタッフに
背中を押され「(スペシャルオリンピックスの)トーチ持って走った」「(その時に)岩国行った
よね」など、思い出話から始まります。中森さんにとっては、とくに心に残っている
ことなのだとわかります。待ってくれていたきららがいるということはとても幸せなこと
で、ありがたいと感じるばかりです。

中森さん、今日は何の話をしてしょうか。

(就労センターあっぷ 松浦 涼太)

「お気に入りスリッパ」

アグリ所属の石田さんは、仕事が終わったら事務局へ寄られます。自分のスリッパを
履くようにお願いしても、来客用の黄緑のスリッパを履かれます。石田さんにとってはその
スリッパが履き心地が良いのかもしれませんが、お気に入りです。過ぎず安に、私も仕事に
力も!!と思っていることを川柳にこめてみました。

きみどりの 足音ひびく ひとのはの場

(プレバトにはまっています 事務局 岡川 智美)

「ひあ・くらぶの第一印象」

ひあ・くらぶを見学させてもらった時のことです。小学校下校時に来所したゆうくん
は「列車を見に行きたいです」と。スタッフの方はすぐに「行こう。列車の時間調べて
くるね」と。私は、え、今から...時間は大丈夫なの?と戸惑いませ。ゆうくんは列車が
大好きで列車や線路のこと詳しく知っているという話を後から聞きました。

好きなことややりたいことがあること、そしてそれを言、てどうすればできるか一着に考え
たり調べたりして実際にやってみる。そうしてできた時の達成感を子どもたちと味わ、て
いきたいです。

(ひあ・くらぶ 小笠原 純子)

ひあ・くらぶの放課後等デイサービス事業は、個別支援を希望する家庭に限定させてもらっています。
個別のかわりの中で「やりたい気持ち」を大切に、達成感を積み重ねること、大人との信頼感や
自信につなげていくことを目的としています。児童期までに好きなことを見つけ自信をつけることが自立の基になります。

語り継ぎたいこと おーい 聴こえますか 改訂版

しげるくんは心がえらいよ

(字: 新谷 俊治)

今回三人のきららと一緒に配達に出掛けました。
いつものように読みながら、知らない字は「あれ
は、どういうてかいとるん?」と尋ねてきます。す
ると片山さんがすかさず「あれは〇〇。」と答えます。
向井さんは、さも感心したように「ふーん。片山さ
んはえらいねえ。」とつぶやきました。そのやりとり
を聞いていた川崎茂さんが「ぼくは?」と問いかけ
ました。向井さんは一瞬「えっ!」という顔をして
いましたが、「そりゃあ、しげるくんは心がえらいん
よ。」と答えました。川崎さんは「はい。」と納得顔。
向井さんも名返答に感心したのか、自分でうなずいて
いました。
三人のやりとりを聞きながら「そうだよなあ。測
ることの出来ないところを認め合えることがいいんだ
よな。ひとはではそれが大切なんだよなあ。: それ
にしても向井さんめえ、うまい返事をしたもんだ。」
と、私は一人悦に入っていました。

車での道すがら、窓に映る看板を見ながら、覚えてる字は「マツダイ
うてかいちよるよ。」「キリンじやる。」「読んで「ぼくはすごいじやる
う。」「と得意顔になる向井大輔さん。

今回 竹内さんが取材したのは くらむぼんの中の「あじさいグループ」
ですが、くらむぼんには現在35名の児童生徒が在籍し利用して
おり、「あじさいグループ」「さくらグループ」の2グループに分かれて活動を
行なっています。
「あじさいグループ」は、主に一人一人が最後までやり遂げる経験を積み重ね、
自信につなげることを目的としており、「さくらグループ」は主に少人数グループで
取り組む力を身につけ、自信をつけて集団生活につなげることを目的としています。
学年や年齢ではなく、利用児童が今身につけるべき力は何かを見極め、課題
に合わせたグループ分けをしています。(白井 くみこ)

編
集
後
記